



# 社協だより

発行者  
 社会福祉法人  
 高山村社会福祉協議会  
 TEL 242-1220  
 FAX 242-1222  
 印刷所  
 (株) オフセット

令和3年4月15日 (第135号)

## 花壇でお花を育ててみませんか



取り出した苗をポットに植替え



発芽したサルビアを皿に取り出し



色とりどりの花に囲まれながらの移植作業



ハウス内はサイネリアが見ごろに



移植後の苗はみるみる成長



B型事業所で働く障がい者の皆さんも楽しく作業

況が続いていますが、周りに花を植えて楽しむことは、きっと心の栄養になると思います。フラワーセンターのスタッフ一同、皆様のご利用をお待ちしています。

感染症予防のため外出を控える状況が続いていますが、周りに花を植えて楽しむことは、きっと心の栄養になると思います。フラワーセンターのスタッフ一同、皆様のご利用をお待ちしています。

毎年この時期になると、学校や公共団体等からの注文や、高山村花いっぱい運動に参加協力するシニアクラブ(老人クラブが改名)や自治会などへも供給するため、フラワーセンターは大忙しです。今年も、定番のサルビアやマリーゴールド、千日草やアゲラタムなどの苗が、ビニールハウスに所狭しと並んでいます。

寒い冬が終わり、花壇に花苗を植え付ける季節がやってきました。チャオルにある就労継続支援B型事業所のフラワーセンターでは、春先に花壇へ植え付けるための花苗が出荷を待っています。

B型事業所に通う障がいをお持ちの皆さんが、昨年の秋から苗床に種をまき、水やりと温度管理に気を使いながら芽出しをし、発芽間もない苗をピントセットで小さなポットに移植。その後も苗の成長に合わせ大きいポットに植替えて、ようやく出荷できる大きさになりました。

### フラワーセンター花苗の販売



社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で発行されています。

### 令和 3 年度 事業計画及び予算

## 「誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けるために」 ～ 地域における新たな支え合いの広がり求めて ～

3 月 18 日に開催した理事会において、令和 3 年度の事業計画（案）及び予算（案）をご承認いただき、3 月 26 日に開催した評議員会では、同案件について慎重に審議され、議決していただきました。

高山村社会福祉協議会では、「誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けるために」を基本方針として、重点活動項目の事業を推進しながら、公的な福祉サービスとともに地域住民の福祉への関心や意識を高め、支え合い活動を通じて地域福祉の推進に努めてまいります。

また、介護保険事業では常に利用者の皆さんの立場に立ち、一人ひとりに必要な介護や支援の方法を見極め、満足が得られる良質なサービス運営に努めてまいります。

### 当協議会は、昭和 54 年 10 月に法人化し、今年で 42 年目を迎えます。

#### 1 法人運営の適正化

法令を遵守した健全な財政運営、福祉従事者の専門性向上に努めます。

#### 6 フラワーセンターの経営

B 型事業所通所者の就労提供と販売訓練を通じての社会参加、村内花いっぱい運動への花苗供給を行います。

#### 2 地域福祉の推進

高齢者・障がい者・独り暮らし高齢者・児童・ひとり親家庭等福祉事業、サロン活動支援、ボランティアの育成・活動支援、金銭管理・財産保全サービス事業等を実施します。

#### 7 指定管理者制度による施設管理

高齢者福祉センター、高齢者交流センター松の湯荘等の適正な管理運営に努めます。

#### 3 共同募金の推進

生活困窮者・障がい者等の生活支援、安心安全なまちづくり活動支援公募配分事業、赤い羽根共同募金事業等を推進します。

#### 8 生活支援受託事業

福祉輸送サービス事業、軽度生活援助員派遣事業、牧場線バス運行委託、結婚相談事業等を推進します。

#### 4 介護保険事業の適正運営

デイサービス・ホームヘルプ・ケアマネ・松の湯倶楽部の各事業所の適正運営と経営基盤強化、良質な介護サービスの提供に努めます。

#### 9 貸付等援護事業

県社協生活福祉資金、総合支援資金、高山村善意銀行くらしの資金貸付事業等を実施します。福祉車両貸出サービス事業を実施します。

#### 5 障がい者総合支援(自立支援)事業の適正運営

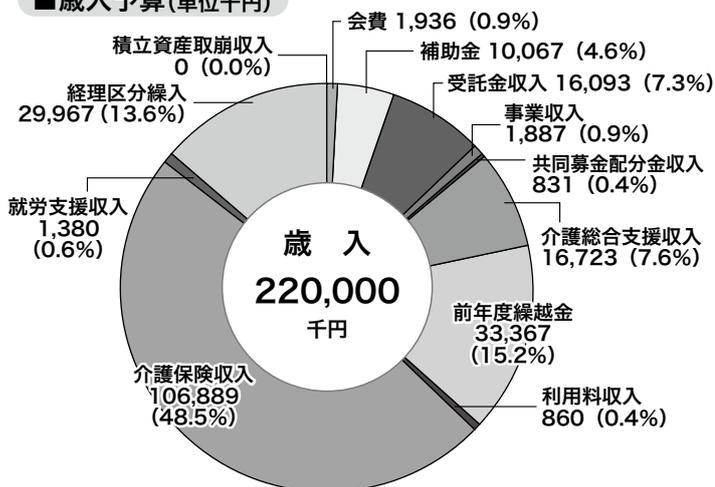
障がい者居宅支援(ホームヘルプ)・生活介護(デイサービス)事業、一般・特定相談支援事業、就労継続支援 B 型事業所の適正な運営に努めます。

#### 10 日本赤十字社事業

各種義援金募集、日赤会費の募集、日赤奉仕団の育成と活動を推進します。

### 令和 3 年度 一般会計予算

■歳入予算(単位千円)



# 東日本大震災特集

発生から10年目の今年、現地でボランティア活動をした3名の方に、当時を振り返っていただきました。

## 東日本大震災から10年

社協職員 上野 通彦

東日本大震災発生後の2カ月後、長野県社会福祉協議会からの依頼により現地スタッフとして1週間支援に参加しました。

震災の当日は、勤務中にテレビから大変な状況が流れてきて驚愕したことを思い出します。派遣先は岩手県の山田町で、津波によって家屋や倉庫などが押し流され、基礎だけが残った風景や独特の臭い、その中に赤い旗が点々と残され、そこは遺体が見つかった場所だと聞いた時は、自然の驚異に愕然としました。



津波で建物が流された山田町



津波で被災した住宅の作業

現地ではスタッフとして、

参加したボランティアに作業を依頼する業務を担当し、ボランティアの大切さを実感しました。10年経つたらまたここに来ようと決めていました。が、残念ながら今はコロナで行けません。行けるようになつたら必ず訪問し、10年前に撮った写真と今の状況を比較してみたいと思っています。

ボランティア等によって復興が進んだ山田町を、早く見に行けることを切に願っています。

## 10年間のボランティア

小林 武雄

10年前の3月11日、地震直後につけたテレビとその後の報道で、信じ難い惨事を脳裏にたたき込まれました。

「被災地へのボランティア募集」があると聞き、自分に何ができるか全くわかりませんでした。が、マイクロバスを交代で運転しながら12時間以上

掛けて現地に向かいました。向かった先々では、懸命に作業する人の中に多くの学生が混じっていることが目に留まり、被災地を思う気持ちの強さを感じました。また、被災された方々に直接話を聞く機会がありました。とても現実の内容でした。



南三陸町総合防災センター

当時、通りの両側にすっと瓦礫の山が続いていた場所も年々整備が進んで盛土され、少しずつ人々に笑顔が戻っているように見えました。津波で家族を亡くされた方々は、

「一日一日、一年一年、悲しみは増すばかり、区切りなんてない。まだ始まったばかり」と、絞り出すように言葉を吐き、胸が詰まりました。

自分としては、せめて年に一度は現地へ足を運び、人々と交流して地元のお土産を購入するだけでも支援になるかなあーと実践して来ま

した。これからも是非続けていきたいと思えます。

## 福島原発被災者への支援

目黒 敦子

震災1年後に定年退職した私は、福島県の双葉町で、2年間住民の健康管理を支援させていただきました。

双葉町の住民の避難は、仮設や借り上げ住宅への入居のほか、全国各地に広がっています。私は臨時看護職員として、福島県内の避難されている町民一人ひとりの登録居住地に2人一組で訪問し、生活及び健康状態を確認して町民台帳を作成しました。



避難所で住民が集まって餅つき

原発事故による避難は津波の場合とは状況が違っていて、複雑な避難者の気持ちをしなくても和らげるための、「心のケアセンター」にも足を運ばない。また、町民の健康保持増進を目的とした「サロン」

を、多くの支持者と協力して企画運営しました。被災者の方や関係する行政職員の方、多くのボランティアの方と出会ったこと、復興の一端となる関わり方を実践できたこと、被災者の声と共に活動してきたこと等は貴重な体験で、走馬灯のように思い出されま



サロンで楽しむ避難者の皆さん

す。特に共に活動した看護職の方とは、言葉にできない呼吸を今でも感じます。

帰還困難地域がほとんどの双葉町は、復興住宅入居や自宅再建など新たな生き方を考える町民が多く、「十年経過しても、新しい住居地での地域づくりはこれから」で、復興完了までにはまだまだ時間が掛かりそうです。

仮設住宅でも、近所付き合いをしながらかく楽しく前向きに生活しようと努力している人、逆に閉じこもってしまう人など様々で、今はどうされているのかと考えると、心なやみません。双葉町の皆さんが早く普段の生活に戻れることを心より願っています。

# デイサービス センターの節分

デイサービスセンターでは、2月1日～3日の午後、レクリエーションの時間に節分の「豆まき」を行いました。

今年は例年と違って、感染症予防のため利用者の皆さんは同一方向に並んで座り、やがて現れる鬼に投げつけるため、新聞紙を丸めて準備して行きました。そこに職員が扮した鬼が現れ、暴れまわりながらテーブルに近づいた時、丸めた新聞紙を投げつけます。



鬼は～外

しかし今までとは勝手が違い軽いため狙いが定まりません。中には鬼まで届かずに落ちてしまうものも見られました。初めての試みでしたが利用者の皆さんからは、「かえって手の運動になって良かった。」などと喜んでいただいていた様子でした。

これからも感染予防に気を付けながら、楽しめるものを取り入れていきたいと思っております。

# 赤十字社会員募集

日本赤十字社では、千曲川の堤防が決壊した長野市の救援活動をはじめ、医療活動、国際支援、献血事業、など様々な活動を行っています。

これらの活動資金は、赤十字社の会員の皆さんの会費や寄付金で賄われています。5月は「赤十字会員増強運動月間」です。区長さんを通じて募集を行いますので、まだ会員でない方は会員になっていただきますようお願いいたします。また、法人の募集も合わせて行っております。

お問い合わせは社協まで  
☎242-11220

# ご芳志



福祉車両の寄贈

寄附に対し心より御礼申し上げます。

高山ゆうゆう旅行会様

金 15,000円

令和元年度区長会様

金 21,000円

高山中学校生徒会様

タオル 25kg

風景館様

タオル 15kg

松林 節子様(長野市)

福祉車両(普通車)1台

# 戦没者慰霊法要 開催のお知らせ

4月20日(火)午後1時30分から、忠魂碑前(中学校体育館駐車場入り口)で正安寺住職による慰霊法要を執り行います。

# 社協からのお知らせ

列席される方は、時間までに現地へ直接お越しください。  
お問い合わせは社協まで  
☎242-11220

# 独り暮らし高齢者 料理教室の開催

健康で生き生きと暮らすためには食生活が大切です。美味しく食べて健康寿命をのばしましょう。

対象の方にはハガキでご案内しますので、大勢の皆様のご参加をお願いします。

日時 6月7日(月)

午前10時～正午

場所 保健福祉総合センター

申し込みお問い合わせは社協まで

☎242-11220

# 社協臨時職員急募

社協では、通所介護事業所の介護職員を募集しています。お問い合わせは社協まで  
☎242-11220

# 高齢者福祉センターの地区割は予約制に変わります

高齢者福祉センターに二部屋ある和室は、公平に利用していただくため、これまで地区ごとに利用日を割り振ってききましたが、近年、利用する地区が減り空き部屋の状況が続いています。

一方で、割り振られた日が都合悪く、利用したい日が他の地区の利用日と重なって使えないなど、使い勝手が悪いとのご意見もいただいております。このため、令和3年5月1日より「申込みによる予約制」とさせていただきます。

ご利用いただく際は、高齢者福祉センターへ、電話または直接お申し込みください。

申し込み先

高齢者福祉センター

☎242-11204

# 生活が困窮している方を対象に食料品を提供します

新型コロナウイルス感染症拡大等により、非正規社員が雇止めや解雇され収入が減って困窮するなどの現象が多数発生しています。こうした方々を支援するため、先日、長野県社会福祉協議会より高山村社協に、パックご飯やレトルトカレー、そつめんなどの食料品が届きました。食品提供を希望する方は、お電話でお申し込みください。

申し込みお問い合わせは社協まで  
☎242-11220

# 社協の人事異動

4月1日付で人事異動を行いました。

カッコ内は移動前の部署

○就労継続支援B型事業所

牧 京佑(居宅介護支援)

○居宅介護支援事業所

田中 佑樹(事務局)

○事務局

関 久仁子(訪問介護・松の湯)

○訪問介護事業所兼松の湯倶楽部

西原 秋名(通所介護)

